

内閣府が令和7年度版高齢社会白書を公表しました（令和7年6月10日）

<https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/index-w.html>

高齢社会白書は、高齢社会対策基本法に基づき、平成8年から毎年政府が国会に提出している年次報告書であり、高齢化の状況や政府が講じた高齢社会対策の実施の状況、また、高齢化の状況を考慮して講じようとする施策について明らかにしているものです。

<概要>

高齢化の状況および高齢期の暮らしの動向

○高齢化率は29.3%

- ・我が国の総人口は、令和6年10月1日現在、1億2,380万人。
- ・65歳以上人口は、3,624万人。総人口に占める65歳以上人口の割合（高齢化率）は29.3%。

○健康寿命は横ばい

○65歳以上の就業者数及び就業率は上昇

○65歳以上の一人暮らしの者は増加

高齢者の経済生活をめぐる動向について

○収入を伴う仕事をしている割合は増加

○仕事をする理由は「収入のため」が最も多い

○高齢期における就業意欲は高まっている

○就業に対するニーズは個々人の属性に応じて多様

○仕事をしたいと考えているが就業に至っていない人の理由は様々

○家計に対する不安は高齢女性（75歳以上）において高い

○具体的な不安として特に物価上昇を挙げる人が多い

○高齢期のリスクに応じた備えは全体的に進展

○ほとんどの人は認知機能の低下等に備えた財産管理の必要性の認識が薄い

令和7年版高齢社会白書（概要版）

https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2025/gaiyou/07pdf_indexg.html

令和7年版高齢社会白書（全体版）

https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2025/zenbun/07pdf_index.html